

X. 連結情報

1. グループの概況

(1) グループの事業系統図

JA福岡市のグループは、当JA、子会社2社で構成されています。
当年度及び前年度において連結自己資本比率を算出する対象となる連結子会社は2社です。また、金融業務を営む関連法人はありません。なお、連結自己資本比率を算出する対象となる連結グループと、連結財務諸表規則に基づき連結の範囲に含まれる会社に、相違はありません。



(2) グループの概況

名 称	主たる営業所又は 事務所の所在地	事業の内容	設立年月日	資本金又は 出資金	当JAの 議決権比率	他の子会社等 の議決権比率
株式会社 ジェイエイ福岡	福岡市中央区天神 4丁目9番1号	葬祭事業・霊柩運送業・開 発事業・不動産管理事業	平成4年10月1日	60,000千円	100%	-
株式会社 JAファーム福岡	福岡市中央区天神 4丁目9番1号	田畑の経営・農地管理 育苗センターの運営	平成20年10月1日	30,000千円	99.9%	-

2. 連結事業概況

(1) 事業の概況

平成30年度の当JAの連結決算は、子会社2社を連結しています。
連結決算の内容は、連結経常利益11億4千6百万円（前年度より5億8百万円増）で、連結当期剰余金は4百万円（前年度より2億3千2百万円減）、連結純資産293億3百万円、連結総資産4,635億3千5百万円で、連結自己資本比率は10.86%となっています。

(2) 連結子会社の事業概況

(株)ジェイエイ福岡
当社は、不動産部（開発事業・賃貸管理事業）と葬祭部（葬祭事業・霊柩運送業）の2部門体制で事業を営んでいます。第27期（平成31年3月期）、不動産部においては、有益な情報提供とJA福岡市本支店と連携した開発提案、葬祭部においては、事前相談の強化や原やすらぎ会館リニューアル等に取り組み、総売上高8億6千2百万円（前年度より3千9百万円増）、当期純利益は1億1千3百万円（前年度より1千6百万円増）となりました。

(株)JAファーム福岡
当社は、水稻育苗生産などの作業受託事業をはじめ、栽培事業・食育研修事業・農産物等加工事業及び農機レンタル事業などを営みました。第11期（平成31年3月期）は、売上高7千5百万円（前年度より1百万円増）、当期純利益は1千1百万円（前年度より1百万円増）となりました。

3. 直近の連結会計年度における財産の状況

■直近5年間の連結事業年度の主要な経営指標

(単位：百万円、%)

項 目	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
連結経常収益	10,392	10,475	10,375	10,652	10,510
信用事業収益	4,359	4,222	4,201	4,131	4,104
共済事業収益	1,414	1,479	1,476	1,508	1,496
農業関連事業収益	2,248	2,479	2,387	2,591	2,444
その他事業収益	2,369	2,294	2,309	2,420	2,464
連結経常利益	575	517	661	559	1,146
連結当期剰余金（注）	435	352	437	236	4
連結純資産額	28,106	28,876	29,122	29,302	29,303
連結総資産額	382,844	395,277	418,890	437,325	463,535
連結自己資本比率（%）	12.40	12.41	11.99	11.66	10.86

注1：当期剰余金は、銀行等の当期利益に該当するものです。
注2：「連結自己資本比率」は、「農業協同組合等がその経営の健全性を判断するための基準」に基づき算出しております。なお、平成24年度以前は旧告示（パーゼルⅡ）に基づく連結自己資本比率を記載しています。

4. 決算の状況

■連結貸借対照表

(単位:千円)

科 目	29年度	30年度	科 目	29年度	30年度
(資産の部)			(負債の部)		
1.信用事業資産	419,132,524	445,696,091	1.信用事業負債	401,576,603	427,299,746
(1)現金及び預金	205,930,588	224,064,938	(1)貯 金	396,174,037	415,665,956
(2)有 価 証 券	13,110,052	12,667,585	(2)借 入 金	65,148	57,813
(3)貸 出 金	200,591,520	208,701,215	(3)その他の信用事業負債	5,337,418	11,575,975
(4)その他の信用事業資産	309,532	413,025	2.共済事業負債	1,575,806	1,452,215
(5)貸倒引当金	△809,169	△150,673	(1)共 済 借 入 金	189,554	2,290
2.共済事業資産	193,150	3,401	(2)共 済 資 金	962,539	1,028,482
(1)共 済 貸 付 金	191,021	3,090	(3)その他の共済事業負債	423,711	421,442
(2)その他の共済事業資産	2,129	311	3.経済事業負債	695,702	544,879
3.経済事業資産	945,553	934,134	(1)支払手形及び経済事業未払金	233,922	206,017
(1)受取手形及び経済事業未収金	485,809	513,703	(2)その他の経済事業負債	461,779	338,862
(2)棚 卸 資 産	260,973	226,816	4.設 備 借 入 金	-	7,272
(3)その他の経済事業資産	207,472	198,531	5.雑 負 債	993,149	1,115,456
(4)貸倒引当金	△8,701	△4,916	6.諸 引 当 金	1,350,340	1,413,023
4.雑 資 産	1,353,973	1,155,137	(1)賞 与 引 当 金	246,083	244,670
5.固定資産	10,910,109	10,791,382	(2)退 職 給 付 引 当 金	1,063,395	1,109,852
(1)有形固定資産	10,875,697	10,760,757	(3)役員退職慰労引当金	40,861	58,500
建 物	4,647,017	4,550,113	(4)特例業務負担金引当金	-	595,042
機 械 装 置	649,012	641,009	6.再評価に係る繰延税金負債	1,831,215	1,804,064
土 地	8,698,416	8,613,347	負債の部合計	408,022,817	434,231,700
リ ー ス 資 産	3,030	1,887	(純資産の部)		
建 設 仮 勘 定	1,457	-	1.組 合 員 資 本	24,149,863	24,201,976
その他の有形固定資産	1,914,248	2,121,781	(1)出 資 金	5,133,636	5,216,455
減価償却累計額(控除)	△5,037,484	△5,167,383	(2)利 益 剰 余 金	19,058,298	19,032,783
(2)無形固定資産	34,411	30,625	(3)処 分 未 済 持 分	△41,721	△46,912
その他の無形固定資産	34,411	30,625	(4)子会社の所有する親組出資金	△349	△349
6.外部出資	4,546,185	4,546,185	2.評価・換算差額等	5,152,992	5,101,484
(1)外 部 出 資	4,546,185	4,546,185	(1)その他有価証券評価差額金	505,376	524,735
7.繰延税金資産	242,429	407,085	(2)土地再評価差額金	4,647,616	4,576,749
8.繰延資産	1,800	1,800	3.非支配株主持分	51	57
			純資産の部合計	29,302,907	29,303,518
資産の部合計	437,325,725	463,535,218	負債及び純資産の部合計	437,325,725	463,535,218

■連結損益計算書

(単位:千円)

科 目	2 9 年 度	3 0 年 度	科 目	2 9 年 度	3 0 年 度
1. 事 業 総 利 益	5,808,200	6,387,570	(8) 販売事業費用	624,895	365,134
(1) 信用事業収益	4,131,842	4,104,747	販売品販売原価	579,584	323,694
資金運用収益	3,853,011	3,886,179	販売費	21,913	20,593
(うち預金利息)	(988,696)	(1,178,270)	その他の費用	23,397	20,845
(うち有価証券利息)	(146,998)	(137,330)	販 売 事 業 総 利 益	204,589	196,347
(うち貸出金利)	(2,551,749)	(2,384,660)	(9) その他事業収益	1,641,659	1,655,796
(うちその他受入利息)	(165,567)	(185,917)	(10) その他事業費用	1,009,161	1,007,416
役務取引等収益	88,715	84,427	そ の 他 事 業 総 利 益	632,498	648,379
その他事業直接収益	97,376	28,255	2. 事 業 管 理 費	5,381,658	5,409,254
その他経常収益	92,740	105,885	(1) 人件費	4,238,119	4,271,198
(2) 信用事業費用	978,083	374,836	(2) その他事業管理費	1,143,538	1,138,056
資金調達費用	476,941	477,371	事 業 利 益	426,542	978,316
(うち貯金利息)	(416,605)	(423,543)	3. 事 業 外 収 益	140,162	176,027
(うち給付補てん備金繰入)	(1,518)	(1,066)	(1) 受取雑利息	59	66
(うち借入金利)	(207)	(160)	(2) 受取出資配当金	79,380	78,376
(うちその他支払利息)	(58,609)	(52,600)	(3) その他の事業外収益	60,721	97,585
役務取引等費用	27,165	26,622	4. 事 業 外 費 用	6,733	7,976
その他事業直接費用	217,018	209,071	(1) 支払雑利息	2,163	2,080
その他経常費用	256,958	△338,228	(2) その他の事業外費用	6,733	5,895
(うち貸倒引当金戻入益)	(△77,523)	(△658,894)	経 常 利 益	559,970	1,146,368
信 用 事 業 総 利 益	3,153,759	3,729,911	5. 特 別 利 益	78,084	31,604
(3) 共済事業収益	1,508,338	1,496,995	(1) 固定資産処分益	49,610	190
共済付加収入	1,381,105	1,372,524	(2) その他の特別利益	28,474	31,413
その他の収益	127,233	124,470	6. 特 別 損 失	207,420	1,026,363
(4) 共済事業費用	66,526	57,404	(1) 固定資産処分損	632	1,351
共済推進費及び共済保全費	-	-	(2) 減損損失	201,235	428,300
その他の費用	66,526	57,404	(3) 特例業務負担金引当金繰入	-	595,042
共 済 事 業 総 利 益	1,441,812	1,439,591	(4) その他の特別損失	5,551	1,669
(5) 購買事業収益	2,793,950	2,691,634	税 金 等 調 整 前 当 期 利 益	430,635	151,608
購買品供給高	2,711,851	2,630,474	法人税、住民税及び事業税	260,175	345,924
その他の収益	82,098	61,159	法 人 税 等 調 整 額	△66,519	△199,100
(6) 購買事業費用	2,418,408	2,318,292	法 人 税 等 合 計	193,656	146,823
購買品供給原価	2,355,147	2,259,495	当期利益	236,979	4,785
購買品供給費	5,845	6,965	非支配株主に帰属する当期利益	6	6
その他の費用	57,414	51,831	当 期 剰 余 金	236,973	4,779
購 買 事 業 総 利 益	375,541	373,341			
(7) 販売事業収益	829,485	561,481			
販売品販売高	610,190	354,591			
販売手数料	183,801	177,316			
その他の収益	35,493	29,572			

■連結注記表等

◇平成29年度貸借対照表の注記・損益計算書の注記
(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

I. 連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項に関する注記

1. 連結範囲に関する事項

- (1) 連結される子会社・子法人等……………2社
株式会社 ジェイエイ福岡
株式会社 JAファーム福岡
(2) 非連結子会社・子法人等……………0社
該当なし

2. 持分法の適用に関する事項

- (1) 持分法適用の関連法人等……………0社
該当なし
(2) 持分法非適用の関連法人等……………0社
該当なし

3. 連結される子会社の事業年度等に関する事項

連結されるすべての子会社の事業年度末は、連結決算日と一致しております。

4. 連結される子会社の資産及び負債の評価に関する事項

連結される子会社の資産及び負債の評価については、全面時価評価法を採用しております。

5. 連結調整勘定の償却方法及び償却期間

該当事項はありません。

6. 剰余金処分項目等の取扱いに関する事項

連結剰余金計算書は、連結会計期間において確定した利益処分に基づいて作成しております。

7. 連結キャッシュフロー計算書における現金及び現金同等物の範囲

キャッシュフロー計算書における現金及び現金同等物の範囲は、貸借対照表上の「現金」及び「預金」中の「当座預金」、「普通預金」及び「通知預金」となっています。

II. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

1. 資産の評価基準および評価方法

(1) 有価証券の評価基準および評価方法

有価証券の評価基準および評価方法は、次のとおりです。

種 類	評 価 基 準 及 び 評 価 方 法
満期保有目的の債券	償却原価法(定額法)
子 会 社 株 式 お よ び 関 係 会 社 株 式	移動平均法による原価法
そ の 他 有 価 証 券 (時価のあるもの)	期末日の市場価額等に基づく時価法 (評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)
そ の 他 有 価 証 券 (時価のないもの)	移動平均法による原価法

(2) 棚卸資産の評価基準および評価方法

棚卸資産の評価基準及び評価方法は、次のとおりです。

種 類	評 価 基 準 及 び 評 価 方 法
購 買 品	売価還元法による原価法 (収益性の低下による簿価切下げの方法)
印 紙 証 紙	個別法による原価法 (収益性の低下による簿価切下げの方法)
郵便切手	個別法による原価法 (収益性の低下による簿価切下げの方法)
その他の棚卸資産	個別法による原価法 (収益性の低下による簿価切下げの方法)

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産

- ① 建物
a) 平成10年3月31日以前に取得したもの…旧定率法
b) 平成10年4月1日から
平成19年3月31日までに取得したもの…旧定額法
c) 平成19年4月1日以後に取得したもの…定額法
② 建物以外
a) 平成19年3月31日までに取得したもの…旧定率法
b) 平成19年4月1日から
平成24年3月31日までに取得したもの…定率法(250%定率法)
c) 平成24年4月1日以後に取得したもの…定率法(200%定率法)

③ 建物附属設備及び構築物

平成28年4月1日以後に取得したもの…定額法
耐用年数及び残存価額については、法人税法に規定する方法と同一の基準によっています。また、取得価額10万円以上20万円未満の減価償却資産については、法人税法の規定に基づき、3年間で均等償却を行っています。

(2) 無形固定資産…定額法

自組合利用ソフトウェアについては、当組合における利用可能期間(3年から5年)に基づく定額法により償却しています。

3. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

貸倒引当金は、あらかじめ定めている資産の償却・引当基準及び経理規程に基づき、次のとおり計上しています

正常先債権及び要注意先債権(要管理債権を含む)については、それぞれ過去の一定期間における貸倒実績等から算出した貸倒実績率に基づき算出した金額と税法繰入限度額のいずれか多い金額を計上しています。なお、この基準に基づき、当期は租税特別措置法第57条の9により算定した金額を計上しています。

破綻懸念先債権のうち、2億円以上の債権については、債権額から担保の処分可能見込額及び保証による回収が可能と認められる額を控除し、その残額のうち、債務者の支払能力を総合的に判断して必要と認められる額を引当てています。また、2億円未満の債権については、過去の一定期間における貸倒実績等から算出した貸倒実績率に基づき算出した金額を計上しています。

実質破綻先債権及び破綻先債権については、債権額から、早期処分を前提とした担保の処分可能見込額及び保証による回収が可能と認められる額を控除し、その残額を引当てています。

なお、すべての自己査定は、資産査定基準に基づき、資産査定部署が実施し、当該部署から独立した監査部署が査定結果を監査しており、その査定結果に基づいて上記の引当を行っています。

(2) 賞与引当金

職員に対する賞与支給に充てるため、当期に発生していると認められる額を支給見込額基準により算定し、計上しています。

(3) 退職給付引当金

職員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務(及び年金資産)の見込額に基づき、当事業年度に発生していると認められる額を計上しています。

① 退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度までの期間に帰属させる方法については、給付算定基準によっています。

② 数理計算上の差異の費用処理方法

数理計算上の差異については、発生した事業年度において費用処理することとしています。

(4) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支払いに備えるため、役員退職慰労金引当規程に基づく期末要支給額を計上しています。

4. リース取引の処理方法

リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引で、平成20年3月末以前に取引を行ったものについては、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

X. 連結情報

5. 消費税及び地方消費税の会計処理の方法

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。
ただし、固定資産に係る控除対象外消費税は「雑資産」に計上し、5年間で均等償却を行っています。

6. 決算書類に記載した金額の端数処理の方法

金額は、千円未満を切り捨てて表示しており、金額千円未満の科目については「0」で表示しています。そのため、表中の合計額が一致しないことがあります。また、取引があるが期末に残高が無い勘定科目は削除しています。

III. 連結貸借対照表に関する注記

1. 固定資産の圧縮記帳額

有形固定資産の取得価額から控除している圧縮記帳額は2,731,468千円であり、その内訳は次のとおりです。

(種類) 建物	(圧縮記帳累計額)	1,138,161千円
(種類) 建物附属設備	(圧縮記帳累計額)	229,556千円
(種類) 構築物	(圧縮記帳累計額)	112,591千円
(種類) 機械装置	(圧縮記帳累計額)	318,468千円
(種類) 車両運搬具	(圧縮記帳累計額)	19,830千円
(種類) 器具備品	(圧縮記帳累計額)	15,907千円
(種類) 家畜立木	(圧縮記帳累計額)	31千円
(種類) 土地	(圧縮記帳累計額)	895,876千円
(種類) 無形固定資産	(圧縮記帳累計額)	866千円

2. 担保に供されている資産

以下の資産は為替決済等の取引の担保として信連に差し入れております。
(種類) 預 金 (金額) 3,000,000千円

3. 役員に対する金銭債権債務

理事及び監事に対する金銭債権の総額(金額) 952,173千円
理事及び監事に対する金銭債務の総額(金額) - 円

4. 貸出金のうちリスク管理債権の合計額及びその内訳

貸出金のうち、リスク管理債権に該当する金額は下記のとおりです。
なお、担保・保証等による保全の有無にかかわらず開示対象としているため、開示額は回収不能額を表すものではありません。

(単位:千円)

種 類	残 高
破綻先債権	21,805
延滞債権	1,191,563
3ヵ月以上延滞債権	14,250
貸出条件緩和と債権	106,241
合 計	1,333,862

注1:破綻先債権

元本又は利息の支払の遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本又は利息の取立て又は弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸出金(貸倒償却を行った部分を除く。以下「未収利息不計上貸出金」という。)のうち、法人税法施行令(昭和40年政令第97号)第96条第1項第3号のイからホまでに掲げる事由又は同項第4号に規定する事由が生じているものをいう。

注2:延滞債権

未収利息不計上貸出金であって、注1に掲げるもの及び債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として利息の支払を猶予したものの以外のものをいう。

注3:3ヵ月以上延滞債権

元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から3月以上遅延している貸出金(注1及び注2に掲げるものを除く。)をいう。

注4:貸出条件緩和と債権

債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金(注1から注3に掲げるものを除く。)をいう。

5. 事業用土地の再評価

「土地の再評価に関する法律」(平成10年3月31日公布法律第34号)及び「土地の再評価に関する法律の一部を改正する法律」に基づき事業用土地の再評価を行っています。再評価差額については、当該再評価差額に係る税金相当額を「再評価に係る繰延税金負債」として負債の部に計上し、これを控除した金額を「土地再評価差額金」として純資産の部に計上しています。

再評価の方法及び再評価の年月日は以下のとおりとなります。

- ・再評価の方法 固定資産税評価額に基づく再評価
- ・再評価の年月日 平成11年3月31日
- ・再評価を行った事業用土地の今期決算における時価の合計額が当該事業用土地の再評価後の帳簿価額との合計額を下回る金額
3,509,367千円

IV. 連結損益計算書に関する注記

1. 固定資産の減損会計

当期において、以下の固定資産及び固定資産グループについて減損損失を計上しました。

場 所	用 途	種 類	その他
福岡市早良区 大字脇山 591-1	金融店舗	建物、建物附属設備、構築物、器具・備品	脇山支店
福岡市早良区 内野 8 丁目 1-2	金融店舗	土地、建物附属設備、器具・備品	内野支店
福岡市西区今津 4806-12	金融店舗	土地、器具・備品	今津支店
糸島市板持字 八ノ坪 302-1 家畜市場跡地	遊休資産	土地	家畜市場跡地
福岡市西区福重 1 丁目 10-7	通所介護施設	土地、建物、建物附属設備、構築物、機械装置、器具・備品	福祉センター
福岡市西区福重 1 丁目 16-6	購買店舗	建物附属設備、器具・備品	資材センター
福岡市早良区東 入部 7 丁目 35-3	給油施設	建物、建物附属設備、構築物、機械装置、器具・備品	入部スタンド

当組合は、信用・共済事業等関連施設については管理会計の単位としている支店を基本にグルーピングし、経済事業関連施設については同種の施設単位でグルーピングしております。営農関連施設及び本店については、JA全体の共用資産としております。遊休資産については、個々の場所単位に算定しています。平成29年度に福祉センターのグルーピングについて見直しを行い、共有資産から一般資産へ変更しております。なお、福祉センターにおいては決算期2期連続して営業活動による損益が赤字であるため、帳簿価額を回収可能額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しました。また、下記に示した箇所のうち、脇山支店・内野支店・今津支店・資材センター・入部スタンドについても、決算期2期連続して営業活動による損益の赤字が見られ、家畜市場跡地については、現在遊休資産のため将来の使用見込がないことから、帳簿価額を回収可能額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しました。減損損失額は201,235千円となっています。その内訳は以下のとおりです。

場 所	種 類	減損金額
福岡市早良区大字脇山 591-1 脇山支店	建 物	423 千円
	建物附属設備	507 千円
	構築物	384 千円
	器具・備品	578 千円
	合 計	1,894 千円
福岡市早良区内野 8 丁目 1-2 内野支店	土 地	1,785 千円
	構築物	2,399 千円
	器具・備品	904 千円
	合 計	5,090 千円
福岡市西区今津 4806-12 今津支店	土 地	1,108 千円
	器具・備品	199 千円
	合 計	1,308 千円
糸島市板持字八ノ坪 302-1 家畜市場跡地	土 地	621 千円
福岡市西区福重 1 丁目 10-7 福祉センター	土地	98,398 千円
	建物	72,254 千円
	建物附属設備	7,799 千円
	構築物	6,440 千円
	機械装置	84 千円
	器具・備品	3,771 千円
	合計	188,749 千円
福岡市西区福重 1 丁目 16-6 資材センター	建物附属設備	552 千円
	器具・備品	393 千円
	合計	946 千円
福岡市早良区東入部 7 丁目 37-3 入部スタンド	建物	474 千円
	建物附属設備	438 千円
	構築物	784 千円
	機械装置	865 千円
	器具・備品	62 千円
	合計	2,625 千円
合計		201,235 千円

減損金額を算出する基礎となった回収可能額については、正味売却価額により測定しました。また、その計算に用いる時価は固定資産税評価額を 0.7 で除した数値、または鑑定評価による数値をもとに算定しております。

V. 金融商品に関する注記

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当組合は組合員や地域から預かった貯金を原資に、組合員や地域の利用者・団体などへ貸付け、残った余裕金を福岡県信用農業協同組合連合会へ預けているほか、国債、地方債や社債などの債券による運用を行っています。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

当組合が保有する金融資産は、主として当組管内の組合員等に対する貸出金及び有価証券であり、貸出金は、組合員等の契約不履行によってもたらされる信用リスクに晒されています。

また、有価証券は主に債券であり、満期保有目的及び純投資目的(その他有価証券)で保有しています。これらは発行体の信用リスク、金利の変動リスク及び市場価格の変動リスクに晒されています。

借入金は、制度資金にかかる転貸資金として、日本政策金融公庫等から借入れたものです。

経済事業未収金は、組合員等の信用リスクに晒されています。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

①信用リスクの管理

当組合は、個別の重要案件又は大口案件については理事会において対応方針を決定しています。また、通常の貸出取引については、本店に審査保全課を設置し各支店との連携を図りながら、与信審査を行っています。審査にあたっては、取引先のキャッシュ・フローなどにより償還能力の評価を行うとともに、担保評価基準など厳格な審査基準を設けて、与信判定を行っています。貸出取引において資産の健全性の維持・向上を図るため、資産の自己査定を厳正に行っています。不良債権については管理・回収方針を作成・実践し、資産の健全化に取り組んでいます。また、資産自己査定の結果、貸倒引当金について資産の償却・引当基準に基づき必要額を計上し、資産及び財務の健全化に努めています。

②市場リスクの管理

当組合では、金利リスク、価格変動リスクなどの市場性リスクを的確にコントロールすることにより、収益化及び財務の安定化を図っています。このため、財務の健全性維持と収益力強化とのバランスを重視したALMを基本に、資産・負債の金利感応度分析などを実施し、金融情勢の変化に機敏に対応できる柔軟な財務構造の構築に努めています。

とりわけ、有価証券運用については、市場動向や経済見通しなどの投資環境分析及び当組合の保有有価証券ポートフォリオの状況やALMなどを考慮し、理事会において運用方針を定めるとともに、経営層で構成するALM委員会を定期的に開催して、日常的な情報交換及び意思決定を行っています。運用部門は、理事会で決定した運用方針及びALM委員会で決定された方針などに基づき、有価証券の売買やリスクヘッジを行っています。運用部門が行った取引についてはリスク管理部門が適切な執行を行っているかどうかチェックし定期的にリスク量の測定を行い経営層に報告しています。

(市場リスクにかかる定量的情報)

当組合で保有している金融商品はすべてトレーディング目的以外の金融商品です。

当組合において、主要なリスク変数である金利リスクの影響を受ける主たる金融商品は、「預金」、「貸出金」、「有価証券」のうちその他有価証券に分類している債券、「貯金」及び「借入金」です。

当組合では、これらの金融資産及び金融負債について、期末後 1 年程度の金利の合理的な予想変動幅を用いた経済価値の変動額を、金利の変動リスクの管理にあたっての定量的分析に利用しています。

金利以外のすべてのリスク変数が一定であると仮定し、当事業年度末現在、指標となる金利が 0.15% 上昇したものと想定した場合には、経済価値が 325,607 千円減少するものと把握しています。

当該変動額は、金利を除くリスク変数が一定の場合を前提としており、金利とその他のリスク変数の相関を考慮していません。

また、金利の合理的な予想変動幅を超える変動が生じた場合には、算定額を超える影響が生じる可能性があります。

③資金調達に係る流動性リスクの管理

当組合では、資金繰りリスクについては、運用・調達について月次の資金計画を作成し、安定的な流動性の確保に努めています。また、市場流動性リスクについては、投資判断を行う上での重要な要素と位置付け、商品ごとに異なる流動性(換金性)を把握したうえで、運用方針などの策定の際に検討を行っています。

X. 連結情報

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価(時価に代わるものを含む)には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額(これに準ずる価額を含む)が含まれています。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

(1) 金融商品の貸借対照表計上額及び時価等

当年度末における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額は、次のとおりです。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものについては、次表に含めず(3)に記載しています。

(単位:千円)

	貸借対照表 計上額	時 価	差 額
預 金	204,659,784	204,745,562	85,777
有 価 証 券	13,110,052	13,174,162	64,109
満期保有目的の債券	696,330	760,440	64,109
その他有価証券	12,413,722	12,413,722	-
貸 出 金	200,591,520		
貸倒引当金	△809,169		
貸倒引当金控除後	199,782,350	204,711,617	4,929,267
経済事業未収金	485,809		
貸倒引当金	△8,701		
貸倒引当金控除後	477,107	477,107	-
資 産 計	418,029,295	423,108,449	5,079,154
貯 金	396,174,037	396,610,838	436,801
借 入 金	65,148	65,285	136
経済事業未払金	233,922	233,922	-
負 債 計	396,473,107	396,910,046	436,938

注1:貸出金に対応する一般貸倒引当金及び個別貸倒引当金を控除しています。
注2:経済事業未収金に対応する一般貸倒引当金及び個別貸倒引当金を控除しています。

(2) 金融商品の時価の算定方法

【資産】

①預金

満期のない預金については、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっています。満期のある預金については、期間に基づく区分ごとに、リスクフリーレートである円LIBOR・SWAPレートで割り引いた現在価値を時価に代わる金額として算定しています。

②有価証券

債券は取引金融機関等から提示された価額によっています。

③貸出金

貸出金のうち、変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映するため、貸出先の信用状態が実行後大きく異ならない限り、時価は帳簿価額と近似していることから当該帳簿価額によっています。
一方、固定金利によるものは、貸出金の種類及び期間に基づく区分ごとに、元利金の合計額をリスクフリーレートである円LIBOR・SWAPレートで割り引いた額から貸倒引当金を控除して時価に代わる金額として算定しています。

また、延滞の生じている債権・期限の利益を喪失した債権等については帳簿価額から貸倒引当金を控除した額を時価に代わる金額としています。

④経済事業未収金

経済事業未収金については短期間で決済されるため、帳簿価額を時価とみなしています。
また、延滞の生じている債権等については帳簿価額から貸倒引当金を控除した額を時価とみなしています。

【負債】

①貯金

要求払貯金については、決算日に要求された場合の支払額(帳簿価額)を時価とみなしています。また、定期性貯金については、期間に基づく区分ごとに、将来のキャッシュ・フローをリスクフリーレートである円LIBOR・SWAPレートで割り引いた現在価値を時価に代わる金額として算定しています。

②借入金

借入金のうち、変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映し、また、当組合の信用状態は実行後大きく異ならないことから、時価は帳簿価額と近似していると考えられるため、当該帳簿価額によっています。
固定金利によるものは、一定の期間ごとに区分した当該借入金の元利金の合計額をリスクフリーレートである円LIBOR・SWAPレートで割り引いた現在価値を時価に代わる金額として算定しています。

③経済事業未払金

経済事業未払金については短期間で決済されるため、帳簿価額を時価とみなしています。

(3) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品は次のとおりです。

	貸借対照表計上額
外部出資	4,546,185 千円

(4) 金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額

(単位:千円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内
預金	202,659,784	-	-
有価証券			
満期保有目的 の債券	100,000	200,000	-
その他有価証 券のうち満期 があるもの	859,100	496,500	772,500
貸出金	13,958,982	10,561,447	10,381,789
経済事業未収金	453,467	-	-
合 計	218,031,334	11,257,947	11,154,289

	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
預金	-	-	2,000,000
有価証券			
満期保有目的 の債券	-	200,000	200,000
その他有価証 券のうち満期 があるもの	1,262,100	1,434,600	6,858,500
貸出金	10,099,296	9,736,743	145,029,325
経済事業未収金	-	-	-
合 計	11,361,396	11,371,343	154,087,825

注1:貸出金のうち、当座貸越 826,280 千円については「1年以内」に含めています。

注2:貸出金のうち、3ヵ月以上延滞債権・期限の利益を喪失した債権等 823,936 千円は償還の予定が見込まれていないため含めていません。

注3:経済事業未収金のうち、延滞の生じている債権等 32,341 千円は償還の予定が見込まれないため、含めていません。

(5) 借入金及びその他の有利子負債の決算日後の返済予定額

(単位:千円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内
貯金	269,476,628	64,346,879	60,452,156
借入金	7,334	6,974	6,974
経済事業未払金	233,922	-	-
合計	269,717,885	64,353,854	60,459,130

	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
貯金	1,033,945	864,427	-
借入金	6,974	6,974	29,914
経済事業未払金	-	-	-
合計	1,040,920	871,402	29,914

注1:貯金のうち、要求払貯金については「1年以内」に含めて開示しています。

VI. 有価証券に関する注記

1. 時価のある有価証券

有価証券の時価・評価差額に関する事項は次のとおりです。

(1) 満期保有目的の債券で時価のあるもの

(単位:千円)

種 類	貸借対照表 計上額	時価	評価差額
時価が貸借対 照表計上額を 超えるもの			
国債	696,330	760,440	64,109
小計	696,330	760,440	64,109
合 計	696,330	760,440	64,109

(2) その他有価証券で時価のあるもの

(単位:千円)

種 類	取得価額 (償却原価)	貸借対照表計 上額(時価)	評価差額
貸借対照表 計上額が取得 価額又は償却 原価を超えるもの			
債券	11,614,723	12,316,012	701,289
国債	6,332,448	6,875,920	543,471
地方債	982,566	1,007,992	25,426
社債	4,199,717	4,331,230	131,512
政府保証債	99,991	100,870	878
小計	11,614,723	12,316,012	701,289
貸借対照表 計上額が取得 価額又は償却 原価を超えないもの			
債券	100,000	97,710	△2,290
社債	100,000	97,710	△2,290
小計	100,000	97,710	△2,290
合 計	11,714,723	12,413,722	698,999

なお、上記差額から繰延税金負債 193,622 千円を差し引いた額 505,376 千円が、「その他有価証券評価差額金」に含まれています。

2. 売却した有価証券

当年度中に売却した有価証券は次のとおりです。

(1) その他有価証券

(単位:千円)

種 類	売却額	売却益	売却損
債券	905,074	97,376	-
国債	905,074	97,376	-
合 計	905,074	97,376	-

VII. 退職給付に関する注記

1. 採用している退職給付制度の概要

職員の退職給付にあてるため、退職給与規程に基づき、退職一時金制度を採用しています。また、この制度に加え、同規程に基づき退職給付の一部にあてるため、福岡県農林漁業団体共済会との契約による特定退職金共済制度及び全国共済農業協同組合連合会との契約による確定給付企業年金制度を採用しています。

2. 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

期首における退職給付債務	3,001,537 千円
勤務費用	160,931 千円
利息費用	6,760 千円
数理計算上の差異の発生額	50,545 千円
退職給付の支払額	△220,330 千円
期末における退職給付債務	2,999,443 千円

3. 退職共済会積立額の期首残高と期末残高の調整表

期首における退職共済会積立額	1,182,028 千円
期待運用収益	15,958 千円
数理計算上の差異の発生額	△485 千円
特定退職共済制度への拠出金	54,230 千円
退職給付の支払額	△107,649 千円
期末における退職共済会積立額	1,144,081 千円

4. 年金資産の期首残高と期末残高の調整表

期首における年金資産	792,215 千円
期待運用収益	9,902 千円
年金資産への掛金	48,189 千円
数理計算上の差異の発生額	△905 千円
退職給付の支払額	△56,229 千円
期末における年金資産	793,171 千円

5. 退職給付債務の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金の調整表

退職給付債務	2,999,443 千円
特定退職金共済制度	△1,144,081 千円
年金資産	△793,171 千円
未積立退職給付債務	1,062,190 千円
退職給付引当金	1,062,190 千円

6. 退職給付費用及びその内訳項目の金額

勤務費用	160,931 千円
利息費用	6,760 千円
期待運用収益	△25,860 千円
数理計算上の差異の費用処理額	51,936 千円
臨時に支払った退職金	2,941 千円
合計	196,708 千円

7. 年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりです。

一般勘定	100%
------	------

8. 長期期待運用収益率の設定方法に関する記載

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しています。

9. 割引率その他の数理計算上の計算基礎に関する事項

割引率	0.405%
長期期待運用収益率(年金資産)	1.25%
期待運用収益率(特定退職共済制度)	1.35%
数理計算上の差異の処理年数	1年
(注) 割引率については、加重平均で表しています。	

10. 特例業務負担金の将来見込額

人件費(うち福利厚生費)には、厚生年金保険制度及び農林漁業団体職員共済組合制度の統合を図るための農林漁業団体職員共済組合法等を廃止する等の法律附則第 57 条の規定に基づき、農林漁業団体職員共済組合(存続組合)が行う特例年金給付等の業務に要する費用に充てるため拠出した特例業務負担金 44,954 千円を含めて計上しています。

なお、同組合より示された平成 30 年 3 月末現在における平成 44 年 3 月までの特例業務負担金の将来見込額は、581,893 千円となっています。

VIII. 税効果会計に関する注記

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の内訳

繰延税金資産及び繰延税金負債の内訳は次のとおりです。

繰延税金資産	
退職給付引当金	294,226 千円
賞与引当金	71,060 千円
貸倒引当金超過額	64,758 千円
減価償却超過額	60,160 千円
固定資産減損損失	48,791 千円
役員退職慰労引当金	15,631 千円
未払費用否認額	11,633 千円
その他	23,585 千円
繰延税金資産小計	589,846 千円
評価性引当額	△143,351 千円
繰延税金資産合計	446,495 千円 (A)

繰延税金負債	
全農とふくれんの合併に係るみなし配当	△10,371 千円
有価証券評価差額金	△193,622 千円
資産除去債務に対応する有形固定資産	△71 千円
繰延税金負債合計	△204,065 千円 (B)

繰延税金資産の純額(A) + (B) 242,429 千円

繰延税金資産と繰延税金負債を相殺した残高を繰延税金資産として、貸借対照表に表示しています。

2. 法定実効税率と法人税負担率との差異の主な原因

法定実効税率	27.70%
(調整)	
交際費等永久に損金に算入されない項目	14.56%
評価性引当額の増減	11.33%
住民税均等割等	6.10%
受取配当等永久に益金に算入されない項目	△4.91%
収用等の特別控除	△5.06%
その他	△0.27%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	49.45%

◇平成30年度貸借対照表の注記・損益計算書の注記
(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

I. 連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項に関する注記

1. 連結範囲に関する事項

- (1) 連結される子会社・子法人等……………2社
株式会社 ジェイエイ福岡
株式会社 JAファーム福岡
- (2) 非連結子会社・子法人等……………0社
該当なし

2. 持分法の適用に関する事項

- (1) 持分法適用の関連法人等……………0社
該当なし
- (2) 持分法非適用の関連法人等……………0社
該当なし

3. 連結される子会社の事業年度等に関する事項

連結されるすべての子会社の事業年度末は、連結決算日と一致しております。

4. 連結される子会社の資産及び負債の評価に関する事項

連結される子会社の資産及び負債の評価については、全面時価評価法を採用しております。

5. 連結調整勘定の償却方法及び償却期間

該当事項はありません。

6. 剰余金処分項目等の取扱いに関する事項

連結剰余金計算書は、連結会計期間において確定した利益処分に基づいて作成しております。

7. 連結キャッシュフロー計算書における現金及び現金同等物の範囲

キャッシュフロー計算書における現金及び現金同等物の範囲は、貸借対照表上の「現金」及び「預金」中の「当座預金」、「普通預金」及び「通知預金」となっています。

II. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

1. 資産の評価基準および評価方法

(1) 有価証券の評価基準および評価方法

有価証券の評価基準および評価方法は、次のとおりです。

種 類	評 価 基 準 及 び 評 価 方 法
満期保有目的の債券	償却原価法(定額法)
子 会 社 株 式 お よ び 関 係 会 社 株 式	移動平均法による原価法
そ の 他 有 価 証 券 (時価のあるもの)	期末日の市場価額等に基づく時価法 (評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)
そ の 他 有 価 証 券 (時価のないもの)	移動平均法による原価法

(2) 棚卸資産の評価基準および評価方法

棚卸資産の評価基準及び評価方法は、次のとおりです。

種 類	評 価 基 準 及 び 評 価 方 法
購 買 品 (数量管理品)	総平均法による原価法 (収益性の低下による簿価切下げの方法) 個別法による原価法 (収益性の低下による簿価切下げの方法)
購 買 品 (売価管理品)	売価還元法による原価法 (収益性の低下による簿価切下げの方法)
印 紙 証 紙	個別法による原価法 (収益性の低下による簿価切下げの方法)

郵 便 切 手	個別法による原価法 (収益性の低下による簿価切下げの方法)
その他の棚卸資産	個別法による原価法 (収益性の低下による簿価切下げの方法)

(会計方針の変更に関する注記)

購買品の評価方法は、従来、売価還元法による原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)によっておりましたが、システムの改修を契機に期末在庫の原価金額をより適正に評価するために、購買品(数量管理品)については、総平均法による原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)及び個別法(収益性の低下による簿価切下げの方法)に変更しております。当該会計方針の変更は、評価方法の変更による影響額が軽微であるため遡及適用は行いません。

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産

① 建物

- a) 平成10年3月31日以前に取得したもの…旧定率法
b) 平成10年4月1日から
平成19年3月31日までに取得したもの…旧定額法
c) 平成19年4月1日以後に取得したもの…定額法

② 建物以外

- a) 平成19年3月31日までに取得したもの…旧定率法
b) 平成19年4月1日から
平成24年3月31日までに取得したもの…定率法(250%定率法)
c) 平成24年4月1日以後に取得したもの…定率法(200%定率法)

③ 建物附属設備及び構築物

平成28年4月1日以後に取得したもの…定額法

耐用年数及び残存価額については、法人税法に規定する方法と同一の基準によっています。また、取得価額10万円以上20万円未満の減価償却資産については、法人税法の規定に基づき、3年間で均等償却を行っています。

(2) 無形固定資産…定額法

自組合利用ソフトウェアについては、当組合における利用可能期間(3年から5年)に基づく定額法により償却しています。

3. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

貸倒引当金は、あらかじめ定めている資産の償却・引当基準及び経理規程に基づき、次のとおり計上しています。

正常先債権及び要注意先債権(要管理債権を含む。)については、それぞれ過去の一定期間における貸倒実績等から算出した貸倒実績率に基づき算出した金額を計上しています。

破綻懸念先債権のうち2億円以上の債権については、債権額から担保の処分可能見込額及び保証による回収が可能と認められる額を控除し、その残額のうち、債務者の支払能力を総合的に判断して必要と認められる額を引当てています。また、2億円未満の債権については、過去の一定期間における貸倒実績等から算出した貸倒実績率に基づき算出した金額を計上しています。

実質破綻先債権及び破綻先債権については、債権額から、早期処分を前提とした担保の処分可能見込額及び保証による回収が可能と認められる額を控除し、その残額を引当てています。

なお、すべての自己査定は、資産査定基準に基づき、資産査定部署が実施し、当該部署から独立した監査部署が査定結果を監査しており、その査定結果に基づいて上記の引当を行っています。

(追加情報)

破綻先、実質破綻先及び破綻懸念先以外の債権に係る貸倒引当金は、貸倒実績率を補正する方法として、従来、租税特別措置法施行令に基づく法定繰入率を適用していましたが、総合的な監督指針の改正を踏まえた資産の償却・引当基準の変更に伴い、当事業年度から過去の貸倒実績率に基づき補正する方法に変更しています。

この変更により、従来の方法と比べて、当事業年度の事業利益、経常利益及び税引前当期利益がそれぞれ639,858千円増加しています。

X. 連結情報

(2) 賞与引当金

職員に対する賞与支給に充てるため、当事業年度に発生していると認められる額を支給見込額基準により算定し、計上しています。

(3) 退職給付引当金

職員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務(及び年金資産)の見込額に基づき、当事業年度に発生していると認められる額を計上しています。

① 退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっています。

② 数理計算上の差異の費用処理方法

数理計算上の差異については、発生した事業年度において費用処理することとしています。

(4) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支払いに備えるため、役員退職慰労金引当規程に基づく期末要支給額を計上しています。

(5) 特例業務負担金引当金

特例業務負担金引当金は、「厚生年金保険制度及び農林漁業団体職員共済組合制度の統合を図るための農林漁業団体職員共済組合等を廃止する等の法律」附則第 57 条に基づき、旧農林共済組合(存続組合)が行う特例年金給付等の業務に要する費用に備えるため、拠出する特例業務負担金の平成 31 年 3 月現在における平成 44 年 3 月までの実負担見込額に基づき計上しております。

(追加情報)

従来、特例業務負担金については、将来見込額を注記する方法によっていましたが、平成 30 年 5 月に改正法が成立し、旧農林共済組合が受給者・未裁定者に支払うべき債務が確定することになるため、より合理的な見積もりが可能となったことから、当年度より特例業務負担金引当金として負債に計上する方法に変更しています。

この結果、従来の方法によった場合と比較して、税引前当期利益が 595,042 千円減少しています。

4. リース取引の処理方法

リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引で、平成 20 年 3 月末以前に取引を行ったものについては、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

5. 消費税及び地方消費税の会計処理の方法

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。ただし、固定資産に係る控除対象外消費税は「雑資産」に計上し、5 年間で均等償却を行っています。

6. 決算書類に記載した金額の端数処理の方法

金額は、千円未満を切り捨てて表示しており、金額千円未満の科目については「0」で表示しています。そのため、表中の合計額が一致しないことがあります。また、取引があるが期末に残高が無い勘定科目は削除しています。

III. 連結貸借対照表に関する注記

1. 固定資産の圧縮記帳額

有形固定資産の取得価額から控除している圧縮記帳額は 2,721,469 千円であり、その内訳は次のとおりです。

(種類) 建物	(圧縮記帳累計額)	1,138,161 千円
(種類) 建物附属設備	(圧縮記帳累計額)	218,065 千円
(種類) 構築物	(圧縮記帳累計額)	112,591 千円
(種類) 機械装置	(圧縮記帳累計額)	320,137 千円
(種類) 車両運搬具	(圧縮記帳累計額)	19,830 千円
(種類) 器具備品	(圧縮記帳累計額)	15,907 千円
(種類) 家畜立木	(圧縮記帳累計額)	31 千円
(種類) 土地	(圧縮記帳累計額)	895,876 千円
(種類) 無形固定資産	(圧縮記帳累計額)	866 千円

2. 担保に供されている資産

①以下の資産は為替決済等の取引の担保として信連に差し入れております。

(種類) 預 金 (金額) 3,000,000 千円

②以下の資産は手形交換等の取引の担保として福岡銀行に差し入れております。

(種類) 現 金 (金額) 1,000 千円

③以下の資産は水道事業公金収納事務取扱金融機関の担保として福岡市に差し入れております。

(種類) 現 金 (金額) 500 千円

④以下の資産は下水道事業公金収納事務取扱金融機関の担保として福岡市に差し入れております。

(種類) 現 金 (金額) 500 千円

3. 役員に対する金銭債権債務

理事及び監事に対する金銭債権の総額(金額) 1,201,087 千円

理事及び監事に対する金銭債務の総額(金額) - 円

4. 貸出金のうちリスク管理債権の合計額及びその内訳

貸出金のうち、リスク管理債権に該当する金額は下記のとおりです。

なお、担保・保証等による保全の有無にかかわらず開示対象としているため、開示額は回収不能額を表すものではありません。

(単位:千円)

種 類	残 高
破綻先債権	21,215
延滞債権	828,626
3ヵ月以上延滞債権	13,257
貸出条件緩和債権	97,113
合 計	959,213

注 1:破綻先債権

元本又は利息の支払の遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本又は利息の取立て又は弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸出金(貸倒償却を行った部分を除く。以下「未収利息不計上貸出金」という。)のうち、法人税法施行令(昭和 40 年政令第 97 号)第 96 条第 1 項第 3 号のイからホまでに掲げる事由又は同項第 4 号に規定する事由が生じているものをいう。

注 2:延滞債権

未収利息不計上貸出金であって、注 1 に掲げるもの及び債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として利息の支払を猶予したもののものをいう。

注 3:3ヵ月以上延滞債権

元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から 3 月以上遅延している貸出金(注 1 及び注 2 に掲げるものを除く。)をいう。

注 4:貸出条件緩和債権

債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金(注 1 から注 3 に掲げるものを除く。)をいう。

5. 土地の再評価に関する法律に基づく再評価

「土地の再評価に関する法律」(平成 10 年 3 月 31 日公布法律第 34 号)及び「土地の再評価に関する法律の一部を改正する法律」に基づき事業用土地の再評価を行っています。再評価差額については、当該再評価差額に係る税金相当額を「再評価に係る繰延税金負債」として負債の部に計上し、これを控除した金額を「土地再評価差額金」として純資産の部に計上しています。

再評価の方法及び再評価の年月日は以下のとおりとなります。

- ・再評価の方法 固定資産税評価額に基づく再評価
- ・再評価の年月日 平成 11 年 3 月 31 日

・再評価を行った事業用土地の今期決算における時価の合計額が当該事業用土地の再評価後の帳簿価額との合計額を下回る金額
596,412 千円

IV. 連結損益計算書に関する注記

1. 固定資産の減損会計

当期において、以下の固定資産及び固定資産グループについて減損損失を計上しました。

場所	用途	種類	その他
福岡市城南区別府 5 丁目 13-36	金融店舗	土地、建物、建物附属設備、構築物、器具・備品、無形固定資産	別府支店
福岡市早良区東入部 6 丁目 18-3	金融店舗	土地、建物、建物附属設備、構築物、機械装置、車両運搬具、器具・備品、無形固定資産	入部支店
福岡市早良区大字脇山 591-1	金融店舗	建物、建物附属設備、構築物、車両運搬具、器具・備品、無形固定資産	脇山支店
福岡市早良区内野 8 丁目 1-2	金融店舗	器具・備品、無形固定資産	内野支店
福岡市西区大字金武 2136	金融店舗	土地、建物、建物附属設備、構築物、車両運搬具、器具・備品、無形固定資産	金武支店
福岡市西区戸切 1 丁目 1-25	金融店舗	建物、建物附属設備、構築物、器具・備品、無形固定資産	戸切支店
福岡市西区今津 4806-12	金融店舗	土地、建物、車両運搬具、器具・備品、無形固定資産	今津支店
福岡市早良区東入部 7 丁目 37-3	燃料施設	建物、建物附属設備、構築物、器具・備品、無形固定資産	燃料センター
福岡市早良区東入部 7 丁目 37-3	給油施設	建物、建物附属設備、構築物、機械装置、器具・備品、無形固定資産	入部スタンド
福岡市西区今宿 1 丁目 1-30	購買店舗	土地、建物、建物附属設備、構築物、器具・備品、無形固定資産	米香房
福岡市西区福重 1 丁目 10-7	通所介護施設	車両運搬具、器具・備品	福祉センター
福岡市早良区内野 8 丁目 5-8	遊休資産	土地、建物、建物附属設備、構築物、機械装置、器具・備品、無形固定資産	旧エノキ加工場
糸島市板持字八ノ坪 302-1	遊休資産	土地	家畜市場跡地
福岡市西区今宿駅前 1 丁目 640-1、641-2	賃貸資産	土地	今宿駅前貸駐車場

当組合は、信用・共済事業等関連施設については管理会計の単位としている支店を基本にグルーピングし、経済事業関連施設については同種の施設単位でグルーピングしております。営農関連施設及び本店については、JA 全体の共用資産としております。遊休資産については、個々の場所単位に算定しています。

下記により示した箇所のうち、別府支店・入部支店・脇山支店・内野支店・金武支店・戸切支店・今津支店・燃料センター・入部スタンド・米香房・福祉センターについては、決算期 2 期連続して営業活動による損益の赤字が見られたため、帳簿価格を回収可能価格まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しました。旧エノキ加工場については事業廃止により遊休資産となったため、また家畜市場跡地については、現在遊休資産で将来の使用見込がないことから帳簿価格を回収可能額まで減額し当該減少額を減損損失として特別損失に計上しました。遊休資産の管理として一時的に賃貸をしている今宿駅前駐車場についても帳簿価格を回収可能額まで減額し当該減少額を減損損失として特別損失に計上しました。減損損失額は 428,300 千円となっています。その内訳は、以下のとおりです。

場 所	種 類	減損損失
福岡市城南区別府 5 丁目 13 - 36 別府支店	土 地	24,237 千円
	建 物	11,511 千円
	建物附属設備	1,464 千円
	構築物	80 千円
	器具・備品	2,979 千円
	無形固定資産	256 千円
	合 計	40,530 千円
福岡市早良区東入部 6 丁目 18 - 3 入部支店	土 地	1,375 千円
	建 物	55,268 千円
	建物附属設備	7,356 千円
	構築物	1,997 千円
	機械装置	1,256 千円
	車両運搬具	33 千円
	器具・備品	3,172 千円
	無形固定資産	371 千円
	合 計	70,831 千円
福岡市早良区大字脇山 591-1 脇山支店	建 物	44 千円
	建物附属設備	63 千円
	構築物	40 千円
	車両運搬具	34 千円
	器具・備品	475 千円
	無形固定資産	50 千円
	合 計	707 千円
福岡市早良区内野 8 丁目 1-2 内野支店	器具・備品	260 千円
	無形固定資産	38 千円
	合 計	299 千円
福岡市西区大字金武 2136 金武支店	土 地	40,843 千円
	建 物	97,705 千円
	建物附属設備	22,592 千円
	構築物	9,183 千円
	車両運搬具	148 千円
	器具・備品	13,610 千円
	無形固定資産	853 千円
	合 計	184,937 千円
福岡市西区戸切 1 丁目 1-25 戸切支店	建 物	17,229 千円
	建物附属設備	1,956 千円
	構築物	3,902 千円
	器具・備品	1,283 千円
	無形固定資産	63 千円
	合 計	24,435 千円
福岡市西区今津 4806-12 今津支店	土 地	2,237 千円
	建 物	2,023 千円
	車両運搬具	20 千円
	器具・備品	301 千円
	無形固定資産	342 千円
	合 計	4,924 千円
福岡市早良区東入部 7 丁目 37-3 燃料センター	建 物	4,424 千円
	建物附属設備	29,899 千円
	構築物	619 千円
	器具・備品	214 千円
	無形固定資産	101 千円
	合 計	35,259 千円
福岡市早良区東入部 7 丁目 35 - 3 入部スタンド	建 物	6 千円
	建物附属設備	6 千円
	構築物	3 千円
	機械装置	15 千円
	器具・備品	14 千円
	無形固定資産	1 千円
	合 計	47 千円
福岡市西区今宿 1 丁目 1-30	土 地	20,699 千円

米香房	建 物	11,911千円
	建物附属設備	900千円
	構築物	157千円
	器具・備品	10千円
	無形固定資産	388千円
	合 計	34,067千円
福岡市西区福重1丁目10-7 福祉センター	車両運搬具	2,180千円
	器具・備品	16千円
	合 計	2,197千円
福岡市早良区内野8丁目5-8 旧エノキ加工場	土 地	4,009千円
	建 物	5,592千円
	建物附属設備	375千円
	構築物	153千円
	機械装置	6,918千円
	器具・備品	65千円
	無形固定資産	80千円
	合 計	17,196千円
糸島市板持字八ノ坪302-1 家畜市場跡地	土 地	9,627千円
福岡市西区今宿駅前1丁目640-1、641-2 今宿駅前貸駐車場	土 地	3,237千円
合 計		428,300千円

減損金額を算出する基礎となった回収可能額については、正味売却価額により測定しました。また、その計算に用いる時価は固定資産税評価額を0.7で除した数値、または鑑定評価による数値をもとに算定しております。

V. 金融商品に関する注記

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当組合は組合員や地域から預かった貯金を原資に、組合員や地域の利用者・団体などへ貸付け、残った余裕金を福岡県信用農業協同組合連合会へ預けているほか、国債、地方債や社債などの債券による運用を行っています。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

当組合が保有する金融資産は、主として当組合管内の組合員等に対する貸出金及び有価証券であり、貸出金は、組合員等の契約不履行によってもたらされる信用リスクに晒されています。

また、有価証券は主に債券であり、満期保有目的及び純投資目的(その他有価証券)で保有しています。これらは発行体の信用リスク、金利の変動リスク及び市場価格の変動リスクに晒されています。

借入金は、制度資金にかかる転貸資金として、日本政策金融公庫等から借入れたものです。

経済事業未収金は、組合員等の信用リスクに晒されています。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

①信用リスクの管理

当組合は、個別の重要案件又は大口案件については理事会において対応方針を決定しています。また、通常の貸出取引については、本店に審査保全課を設置し各支店との連携を図りながら、与信審査を行っています。審査にあたっては、取引先のキャッシュ・フローなどにより償還能力の評価を行うとともに、担保評価基準など厳格な審査基準を設けて、与信判定を行っています。貸出取引において資産の健全性の維持・向上を図るため、資産の自己査定を厳正に行っています。不良債権については管理・回収方針を作成・実践し、資産の健全化に取り組んでいます。また、資産自己査定の結果、貸倒引当金について資産の償却・引当基準に基づき必要額を計上し、資産及び財務の健全化に努めています。

②市場リスクの管理

当組合では、金利リスク、価格変動リスクなどの市場性リスクを的確にコントロールすることにより、収益化及び財務の安定化を図っています。この

ため、財務の健全性維持と収益力強化とのバランスを重視したALMを基本に、資産・負債の金利感応度分析などを実施し、金融情勢の変化に機敏に対応できる柔軟な財務構造の構築に努めています。

とりわけ、有価証券運用については、市場動向や経済見通しなどの投資環境分析及び当組合の保有有価証券ポートフォリオの状況やALMなどを考慮し、理事会において運用方針を定めるとともに、経営層で構成するALM委員会を定期的に開催して、日常的な情報交換及び意思決定を行っています。運用部門は、理事会で決定した運用方針及びALM委員会で決定された方針などに基づき、有価証券の売買やリスクヘッジを行っています。運用部門が行った取引についてはリスク管理部門が適切な執行を行っているかどうかチェックし定期的にリスク量の測定を行い経営層に報告しています。

(市場リスクにかかる定量的情報)

当組合で保有している金融商品はすべてトレーディング目的以外の金融商品です。

当組合において、主要なリスク変数である金利リスクの影響を受ける主たる金融商品は、「預金」、「貸出金」、「有価証券」のうちその他有価証券に分類している債券、「貯金」及び「借入金」です。

当組合では、これらの金融資産及び金融負債について、期末後1年程度の金利の合理的な予想変動幅を用いた経済価値の変動額を、金利の変動リスクの管理にあたっての定量的分析に利用しています。

金利以外のすべてのリスク変数が一定であると仮定し、当事業年度末現在、指標となる金利が0.05%上昇したものと想定した場合には、経済価値が152,027千円減少するものと把握しています。

当該変動額は、金利を除くリスク変数が一定の場合を前提としており、金利とその他のリスク変数の相関を考慮していません。

また、金利の合理的な予想変動幅を超える変動が生じた場合には、算定額を超える影響が生じる可能性があります。

③資金調達に係る流動性リスクの管理

当組合では、資金繰りリスクについては、運用・調達について月次の資金計画を作成し、安定的な流動性の確保に努めています。また、市場流動性リスクについては、投資判断を行う上での重要な要素と位置付け、商品ごとに異なる流動性(換金性)を把握したうえで、運用方針などの策定の際に検討を行っています。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価(時価に代わるものを含む)には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額(これに準ずる価額を含む)が含まれています。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

(1) 金融商品の貸借対照表計上額及び時価等

当年度末における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額は、次のとおりです。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものについては、次表に含めず(3)に記載しています。(単位：千円)

	貸借対照表計上額	時 価	差 額
預 金	222,409,574	222,714,034	304,460
有価証券	12,667,585	12,726,616	59,031
満期保有目的の債券	597,068	656,100	59,031
その他有価証券	12,070,516	12,070,516	—
貸 出 金	208,814,486		
貸倒引当金	△ 151,054		
貸倒引当金控除後	208,663,431	214,145,119	5,481,687
経済事業未収金	371,264		
貸倒引当金	△ 4,936		
貸倒引当金控除後	366,328	366,328	—
資 産 計	444,106,919	449,952,098	5,845,178
貯 金	416,349,253	416,893,901	544,648
借 入 金	57,813	58,364	551
経済事業未払金	185,199	185,199	—
負 債 計	416,592,266	417,137,466	545,199

注1:貸出金に対応する一般貸倒引当金及び個別貸倒引当金を控除しています。

注2:経済事業未収金に対応する一般貸倒引当金及び個別貸倒引当金を控除しています。

(2) 金融商品の時価の算定方法

【資産】

①預金

満期のない預金については、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっています。満期のある預金については、期間に基づく区分ごとに、リスクフリーレートである円LIBOR・SWAPレートで割り引いた現在価値を時価に代わる金額として算定しています。

②有価証券

債券は取引金融機関等から提示された価額によっています。

③貸出金

貸出金のうち、変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映するため、貸出先の信用状態が実行後大きく異なっていない限り、時価は帳簿価額と近似していることから当該帳簿価額によっています。

一方、固定金利によるものは、貸出金の種類及び期間に基づく区分ごとに、元利金の合計額をリスクフリーレートである円LIBOR・SWAPレートで割り引いた額から貸倒引当金を控除して時価に代わる金額として算定しています。

また、延滞の生じている債権・期限の利益を喪失した債権等については帳簿価額から貸倒引当金を控除した額を時価に代わる金額としています。

④経済事業未収金

経済事業未収金については短期間で決済されるため、帳簿価額を時価とみなしています。

また、延滞の生じている債権等については帳簿価額から貸倒引当金を控除した額を時価とみなしています。

【負債】

①貯金

要求払貯金については、決算日に要求された場合の支払額(帳簿価額)を時価とみなしています。また、定期性貯金については、期間に基づく区分ごとに、将来のキャッシュ・フローをリスクフリーレートである円LIBOR・SWAPレートで割り引いた現在価値を時価に代わる金額として算定しています。

②借入金

借入金のうち、変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映し、また、当組合の信用状態は実行後大きく異なっていないことから、時価は帳簿価額と近似していると考えられるため、当該帳簿価額によっています。

固定金利によるものは、一定の期間ごとに区分した当該借入金の元利金の合計額をリスクフリーレートである円LIBOR・SWAPレートで割り引いた現在価値を時価に代わる金額として算定しています。

③経済事業未払金

経済事業未払金については短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっています。

(3) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品は次のとおりです。

	貸借対照表計上額
外部出資	4,546,185 千円

(4) 金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額

(単位:千円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内
預金	219,119,313		
有価証券			
満期保有目的 の債券	200,000		
その他有価証券 のうち満期 があるもの	496,500	772,500	1,262,100
貸出金	13,781,936	10,975,984	10,680,382
経済事業未収金	480,053		
合 計	234,077,804	11,748,484	11,942,482

	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
預金			3,500,000
有価証券			
満期保有目的 の債券	200,000		200,000
その他有価証券 のうち満期 があるもの	1,434,600	1,328,500	6,030,000
貸出金	10,323,264	14,220,505	148,153,406
経済事業未収金			
合 計	11,957,864	15,549,005	157,883,406

注1:貸出金のうち、当座貸越 819,181 千円については「1年以内」に含めています。また、期限のない場合は「5年超」に含めています。

注2:貸出金のうち、3ヵ月以上延滞が生じている債権・期限の利益を喪失した債権等 565,736 千円は償還の予定が見込まれていないため含めていません。

注3:経済事業未収金のうち、延滞の生じている債権・期限の利益を喪失した債券等 33,649 千円は償還の予定が見込まれないため、含めていません。

(5) 借入金及びその他の有利子負債の決算日後の返済予定額

(単位:千円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内
貯金	302,939,342	57,802,903	52,899,550
借入金	6,974	6,974	6,974
経済事業未払金	206,017		
合計	303,152,334	57,809,878	52,906,525

	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
貯金	996,409	1,027,751	0
借入金	6,974	6,974	22,940
経済事業未払金			
合計	1,003,383	1,034,725	22,940

注1:貯金のうち、要求払貯金については「1年以内」に含めています。

VI. 有価証券に関する注記

1. 時価のある有価証券

有価証券の時価・評価差額に関する事項は次のとおりです。

(1) 満期保有目的の債券で時価のあるもの

(単位：千円)

種 類		貸借対照表 計上額	時価	差額
時価が貸借対 照表計上額を 超えるもの	国債	597,068	656,100	59,031
	小計	597,068	656,100	59,031
合 計		597,068	656,100	59,031

(2) その他有価証券で時価のあるもの

(単位：千円)

種 類		取得価額 (償却原価)	貸借対照表計 上額(時価)	差額
貸借対照表 計上額が取 得価額又は 償却原価を 超えるもの	債券	11,044,741	11,771,136	726,394
	国 債	6,221,432	6,804,860	583,427
	地 方 債	723,594	743,956	20,361
	社 債	3,799,745	3,915,140	115,394
	政府保証債	299,968	307,180	7,211
小 計		11,044,741	11,771,136	726,394
貸借対照表 計上額が取 得価額又は 償却原価を 超えないもの	債券	300,000	299,380	△ 620
	社 債	300,000	299,380	△ 620
	小 計	300,000	299,380	△ 620
合 計		11,344,741	12,070,516	725,774

なお、上記差額から繰延税金負債 201,039 千円を差し引いた額 524,735 千円が、「その他有価証券評価差額金」に含まれています。

2. 当該事業年度中に売却した有価証券

当事業年度中に売却した有価証券は次のとおりです。

(1) その他有価証券

(単位：千円)

種 類	売却額	売却益	売却損
債券	331,492	28,255	—
国債	331,492	28,255	—
合 計	331,492	28,255	—

VII. 退職給付に関する注記

1. 採用している退職給付制度の概要

職員の退職給付にあてるため、退職給与規程に基づき、退職一時金制度を採用しています。また、この制度に加え、同規程に基づき退職給付の一部にあてるため、福岡県農林漁業団体共済会との契約による特定退職金共済制度及び全国共済農業協同組合連合会との契約による確定給付企業年金制度を採用しています。

2. 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

期首における退職給付債務	2,999,443	千円
勤務費用	162,104	千円
利息費用	6,003	千円
数理計算上の差異の発生額	52,575	千円
退職給付の支払額	△ 219,670	千円
期末における退職給付債務	3,000,455	千円

3. 退職共済会積立額の期首残高と期末残高の調整表

期首における退職共済会積立額	1,144,081	千円
期待運用収益	15,445	千円
数理計算上の差異の発生額	333	千円
特定退職金共済制度への拠出金	54,000	千円
退職給付の支払額	△ 108,158	千円
期末における退職共済会積立額	1,105,700	千円

4. 年金資産の期首残高と期末残高の調整表

期首における年金資産	793,171	千円
期待運用収益	9,927	千円
年金資産への掛金	47,539	千円
数理計算上の差異の発生額	△ 1,244	千円
退職給付の支払額	△ 63,193	千円
期末における年金資産	786,200	千円

5. 退職給付債務の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金の調整表

退職給付債務	3,000,455	千円
特定退職金共済制度	△ 1,105,701	千円
年金資産	△ 786,200	千円
未積立退職給付債務	1,108,553	千円
退職給付引当金	1,108,553	千円

6. 退職給付費用及びその内訳項目の金額

勤務費用	162,104	千円
利息費用	6,003	千円
期待運用収益	△ 25,373	千円
数理計算上の差異の費用処理額	53,486	千円
臨時に支払った退職金	3,479	千円
合計	199,700	千円

7. 年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりです。
一般勘定 100%

8. 長期期待運用収益率の設定方法に関する記載

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しています。

9. 割引率その他の数理計算上の計算基礎に関する事項

割引率	0.241	%
長期期待運用収益率(年金資産)	1.25	%
期待運用収益率(特定退職共済制度)	1.35	%
数理計算上の差異の処理年数	1	年
(注) 割引率については、加重平均で表しています。		

10. 特例業務負担金の将来見込額

人件費(うち福利厚生費)には、厚生年金保険制度及び農林漁業団体職員共済組合制度の統合を図るための農林漁業団体職員共済組合法等を廃止する等の法律附則第 57 条の規定に基づき、農林漁業団体職員共済組合(存続組合)が行う特例年金給付等の業務に要する費用に充てるため拠出した特例業務負担金 45,359 千円を含めて計上しています。

なお、同組合より示された平成 31 年 3 月末現在における平成 44 年 3 月までの特例業務負担金の将来見込額は、553,405 千円となっています。

Ⅷ. 税効果会計に関する注記

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生原因別の主な内訳

繰延税金資産及び繰延税金負債の内訳は次のとおりです。

繰延税金資産

退職給付引当金	307,070	千円
特例業務負担金引当金	164,826	千円
減価償却超過額	150,640	千円
賞与引当金	64,436	千円
減損損失(土地)	62,446	千円
未払費用(法定福利費)	15,382	千円
未払事業税	16,259	千円
その他	23,687	千円
繰延税金資産小計	804,749	千円
評価性引当額	△ 186,404	千円
繰延税金資産合計	618,345	千円 (A)

繰延税金負債

全農とふくれんの合併に係るみなし配当	△ 10,371	千円
有価証券評価差額金	△ 201,039	千円
資産除去債務に対応する有形固定資産	△ 71	千円
繰延税金負債合計	△ 211,482	千円 (B)

繰延税金資産の純額(A) + (B) 406,862 千円

繰延税金資産と繰延税金負債を相殺した残高を繰延税金資産として、貸借対照表に表示しています。

2. 当該事業年度に係る法定実効税率と税効果会計適用後の法人税の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

法定実効税率と法人税等負担率との差異については、税引前当期損失金を計上しているため、内容の記載を行っていません。

■連結剰余金処分計算書

(単位：千円)

科 目	29年度	30年度
(資本剰余金の部)		
1. 資本剰余金期首残高	-	-
2. 資本剰余金増加高	-	-
3. 資本剰余金減少高	-	-
4. 資本剰余金減少高	-	-
(利益剰余金の部)		
1. 利益剰余金期首残高	18,731,873	19,057,234
2. 利益剰余金増加高	424,850	75,646
当期剰余金	236,973	4,779
再評価差額金取崩額	187,877	70,867
3. 利益剰余金減少高	98,425	100,097
配当金	98,425	100,097
4. 利益剰余金期末残高	19,058,298	19,032,783

5. 連結事業年度のリスク管理債権の状況

(単位：百万円)

区 分	29年度末	30年度末	増減
破綻先債権額	21	20	△1
延滞債権額	1,191	828	△362
3ヶ月以上延滞債権額	14	13	△0
貸出条件緩和債権額	106	97	△9
合 計	1,333	959	△374

注1：これらの開示額は、担保処分によって将来回収できるものを含んでいますので、開示額がJAの将来の損失をそのまま表すものではありません。

注2：それぞれの債権の内容は次のとおりです。

★破綻先債権

元本又は利息の支払の遅延が相当期間継続していること、その他の事由により元本又は利息の取立又は弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸出金（貸出金償却を行った部分を除く。以下「未収利息不計上貸出金」という。）のうち、法人税法施行令第96条第1項第3号のイからホまでに掲げる事由又は同項第4号に規定する事由が生じている貸出金をいいます。

★延滞債権

未収利息不計上貸出金であって、破綻先債権及び債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として利息の支払を猶予したものの以外の貸出金をいいます。

★3ヶ月以上延滞債権

元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から3ヶ月以上遅延している貸出金で、破綻先債権及び延滞債権に該当しないものをいいます。

★貸出条件緩和債権

債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で、破綻先債権、延滞債権及び3ヶ月以上延滞債権に該当しないものをいいます。

6. 連結事業年度の事業別経常収益等

(単位：百万円)

事業区分	項 目	29年度	30年度
信用事業	事業収益	4,131	4,104
	経常利益	964	1,484
	資産の額	419,132	445,696
共済事業	事業収益	1,508	1,496
	経常利益	388	380
	資産の額	193	3
農業関連事業	事業収益	2,591	2,444
	経常利益	△267	△316
	資産の額	0	0
その他事業	事業収益	2,420	2,464
	経常利益	△155	△401
	資産の額	0	0
計	事業収益	10,652	10,510
	経常利益	559	1,146
	資産の額	437,325	463,535

7. 連結自己資本の充実の状況

■連結自己資本比率の状況

平成31年3月末における自己資本比率は、10.86%となりました。

連結自己資本は、組合員の普通出資によっています。

◇ 普通出資による資本調達額

項 目	内 容
発行主体	福岡市農業協同組合
資本調達手段の種類	普通出資
コア資本に係る基礎項目に算入した額	5,216百万円

当JAは、適正なプロセスにより自己資本比率を正確に算出し、当JAが抱える信用リスクやオペレーショナル・リスクの管理及びこれらのリスクに対応した十分な自己資本の維持を図るとともに、内部留保の積み増しにより自己資本の充実に努めています。

X. 連結情報

■自己資本の構成に関する事項（単位：百万円）

項 目	当期末	前期末	経過措置による 不算入額
コア資本にかかる基礎項目			
普通出資又は非累積的永久優先出資に係る組合員資本の額	24,100	24,050	
うち、出資金及び資本準備金の額	5,216	5,133	
うち、再評価積立金の額	－	－	
うち、利益剰余金の額	19,032	19,058	
うち、外部流出予定額（△）	（△）101	（△）100	
うち、上記以外に該当するものの額	△46	△41	
コア資本に算入される評価・換算差額等	－	－	
うち、退職給付に係るものの額	－	－	
コア資本に係る調整後非支配株主持分の額	0	0	
コア資本に係る基礎項目の額に算入される引当金の合計額	7	641	
うち、一般貸倒引当金及び相互援助積立金コア資本算入額	7	641	
うち、適格引当金コア資本算入額	－	－	
適格旧資本調達手段の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	－	－	
うち、回転出資金の額	－	－	
うち、上記以外に該当するものの額	－	－	
公的機関による資本の増強に関する措置を通じて発行された資本調達手段の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	－	－	
土地再評価額と再評価直前の帳簿価額の差額の四十五パーセントに相当する額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	1,435	1,749	
非支配株主持分のうち、経過措置によりコア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	－	－	
コア資本にかかる基礎項目の額（イ）	25,544	26,441	
コア資本にかかる調整項目			
無形固定資産（モーゲージ・サービシング・ライツに係るものを除く。）の額の合計額	30	27	6
うち、のれんに係るものの額	－	－	－
うち、のれん及びモーゲージ・サービシング・ライツに係るもの以外の額	30	27	6
繰延税金資産（一時差異に係るものを除く。）の額	－	－	－
適格引当金不足額	－	－	－
証券化取引に伴い増加した自己資本に相当する額	－	－	－
負債の時価評価により生じた時価評価差額であって自己資本に算入される額	－	－	－
退職給付に係る資産の額	－	－	－
自己保有普通出資等（純資産の部に計上されるものを除く。）の額	－	－	－
意図的に保有している他の金融機関等の対象資本調達手段の額	－	－	－
少数出資金融機関等の対象普通出資等の額	－	－	－
特定項目に係る十パーセント基準超過額	－	－	－
うち、その他金融機関等の対象普通出資等に該当するものに関連するものの額	－	－	－
うち、モーゲージ・サービシング・ライツに係る無形固定資産に関連するものの額	－	－	－
うち、繰延税金資産（一時差異に係るものに限る。）に関連するものの額	－	－	－
特定項目に係る十五パーセント基準超過額	－	－	－
うち、その他金融機関等の対象普通出資等に該当するものに関連するものの額	－	－	－
うち、モーゲージ・サービシング・ライツに係る無形固定資産に関連するものの額	－	－	－
うち、繰延税金資産（一時差異に係るものに限る。）に関連するものの額	－	－	－
コア資本に係る調整項目の額（ロ）	30	27	－
自己資本			
自己資本の額（（イ）－（ロ））（ハ）	25,513	26,413	－

項 目	当期末	前期末	経過措置による 不算入額
リスク・アセット等			
信用リスク・アセットの額の合計額	223,419	215,404	
うち、経過措置によりリスク・アセットの額に算入される額の合計額	—	—	
うち、無形固定資産（のれん及びモーゲージ・サービシング・ライツに係るものを除く）		—	
うち、繰延税金資産		—	
うち、退職給付に係る資産		—	
うち、他の金融機関等向けエクスポージャー	—	—	
うち、土地再評価額と再評価直前の帳簿価額の差額に係るものの額	—	—	
うち、上記以外に該当するものの額	—	—	
オペレーショナル・リスク相当額の合計額を八パーセントで除して得た額	11,394	11,026	
信用リスク・アセット調整額	—	—	
オペレーショナル・リスク相当額調整額	—	—	
リスク・アセット等の額の合計額 (二)	234,814	226,430	
自己資本比率			
自己資本比率（（ハ）／（二））	10.86%	11.66%	

注1：「農業協同組合等がその経営の健全性を判断するための基準」に基づき算出しています。

注2：当JAは、信用リスク・アセットの算出にあたっては標準的手法、信用リスク削減手法の適用にあたっては簡便手法、オペレーショナル・リスク相当額の算出にあたっては基礎的手法を採用しています。

注3：当JAが有するすべての自己資本とリスクを対比して、自己資本比率を計算しています。

■自己資本の充実度構成に関する事項

◇信用リスクに対する所要自己資本の額及び区分ごとの内訳

(単位：百万円)

信用リスク・アセット	29年度			30年度		
	エクスポージャーの 期末残高	リスク・アセット額 a	所要自己資本額 b=a×4%	エクスポージャーの 期末残高	リスク・アセット額 a	所要自己資本額 b=a×4%
我が国の中央政府及び中央銀行向け	7,043	—	—	6,833	—	—
我が国の地方公共団体向け	984	—	—	725	—	—
地方公共団体金融機構向け	99	—	—	—	—	—
我が国の政府関係機関向け	984	20	0	200	20	0
地方三公社向け	200	—	—	100	—	—
金融機関及び第一種金融商品取引業者向け	204,875	40,975	1,639	222,628	44,525	1,781
法人等向け	8,488	6,766	270	8,464	6,599	263
中小企業及び個人向け	33,142	22,703	908	32,493	22,117	884
抵当権付住宅ローン	46,556	16,036	641	44,874	15,462	618
不動産取得等事業向け	71,691	70,679	2,827	73,660	72,815	2,912
3月以上延滞等	938	920	36	726	667	26
信用保証協会等及び株式会社 企業再生支援機構による保証付	3,814	366	14	3,943	377	15
共済約款貸付	191	—	—	3	—	—
出資等	456	456	18	456	456	18
他の金融機関等の対象資本調達手段	6,848	17,121	684	6,848	17,121	684
特定項目のうち調整項目に参入されない もの	—	—	—	—	—	—
複数の資産を裏づけとする資産（所 謂「ファント」）のうち、個々の資産の把握 が困難な資産	—	—	—	—	—	—
証券化	—	—	—	—	—	—
経過措置によりリスク・アセットの 額に算入・不算入となるもの	—	641	25	—	2,376	95
上記以外	40,768	38,716	1,548	43,519	40,879	1,635
標準的手法を適用するエクスポージャー計	427,086	215,404	8,616	445,477	223,419	8,936
CVAリスク相当額÷8%	—	—	—	—	—	—
中央清算機関関連エクスポージャー	—	—	—	—	—	—
信用リスク・アセットの額の合計額	427,086	215,404	8,616	445,477	223,419	8,936

注1：「リスク・アセット額」の欄には、信用リスク削減効果適用後のリスク・アセット額を原エクスポージャーの種類ごとに記載しています。

注2：「3月以上延滞等」とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から3カ月以上延滞している債務者に係るエクスポージャー及び「金融機関向け及び第一種金融商品取引業者向け」、「法人等向け」等においてリスク・ウエイトが150%になったエクスポージャーのことです。

注3：「出資等」とは、出資等エクスポージャー、重要な出資のエクスポージャーが該当します。

注4：「経過措置によりリスク・アセットの額に算入、不算入となるもの」とは、他の金融機関等の対象資本調達手段、コア資本に係る調整項目（無形固定資産、前払年金費用、繰延税金資産等）及び土地再評価差額金に係る経過措置により、リスク・アセットに算入したもの、不算入としたものが該当します。

注5：「上記以外」には、現金・外国の中央政府及び中央銀行向け・国際決済銀行等向け・外国の中央政府等以外の公共部門向け・国際開発銀行向け・取立未済手形・未決済取引・その他の資産（固定資産等）・間接清算参加者向け・信用リスク削減手法として用いる保証又はクレジット・デリバティブの免責額が含まれます。

◇オペレーショナル・リスクに対する所要自己資本の額及び基礎的手法の額

(単位：百万円)

29年度		30年度	
オペレーショナル・リスク 相当額を8%で除して得た額 a	所要自己資本額 b=a×4%	オペレーショナル・リスク 相当額を8%で除して得た額 a	所要自己資本額 b=a×4%
11,026	441	11,394	455

注1：オペレーショナル・リスク相当額の算出にあたって、当JAでは基礎的手法を採用しています。

<オペレーショナル・リスク相当額を8%で除して得た額の算出方法（基礎的手法）>

$$\frac{\text{粗利益（直近3年間のうち正の値の合計額）} \times 15\%}{\text{直近3年間のうち粗利益が正の値であった年数}} \div 8\%$$

◇所要自己資本額

(単位：百万円)

29年度		30年度	
リスク・アセット等 （分母）合計 a	所要自己資本額 b=a×4%	リスク・アセット等 （分母）合計 a	所要自己資本額 b=a×4%
226,430	9,057	234,814	9,392

■信用リスクに関する事項

◇標準的手法に関する事項

当ＪＡでは自己資本比率算出にかかる信用リスク・アセット額は告示に定める標準的手法により算出しています。また、信用リスク・アセットの算出にあたって、リスク・ウェイトの判定にあたり使用する格付等は次のとおりです。

（ア）リスク・ウェイトの判定に当たり使用する格付けは、以下の適格格付機関による依頼格付けのみ使用し、非依頼格付けは使用しないこととしています。

適 格 格 付 機 関
株式会社格付投資情報センター（Ｒ＆Ｉ）
株式会社日本格付研究所（ＪＣＲ）
ムーディーズ・インベスターズ・サービス・インク（Ｍｏｏｄｙ'ｓ）
Ｓ＆Ｐグローバル・レーティング（Ｓ＆Ｐ）
フィッチレーティングスリミテッド（Ｆｉｔｃｈ）

（イ）リスク・ウェイトの判定に当たり使用する適格格付機関の格付またはカントリー・リスク・スコアは、以下のとおりです。

エクスポージャー	適 格 格 付 機 関	カントリー・リスク・スコア
金融機関向けエクスポージャー		日本貿易保険
法人等向けエクスポージャー（長期）	R&I, Moody's, JCR, S&P, Fitch	
法人等向けエクスポージャー（短期）	R&I, Moody's, JCR, S&P, Fitch	

◇信用リスクに関するエクスポージャーの期末残高及び主な種類別の内訳

(単位：百万円)

	２９年度			３０年度		
	信用リスクに関するエクスポージャーの残高			信用リスクに関するエクスポージャーの残高		
		うち貸出金等	うち債券		うち貸出金等	うち債券
信用リスク期末残高	426,314	196,216	12,439	445,487	198,040	11,968
信用リスク平均残高	417,954	201,793	12,964	436,135	203,288	12,230

注１：信用リスクに関するエクスポージャーの残高には、資産（自己資本控除となるもの、リスク・ウェイトのみなし計算が適用されるエクスポージャーに該当するもの、証券化エクスポージャーに該当するものを除く）及びオフ・バランス取引の与信相当額を含みます。

◇信用リスクに関するエクスポージャーの地域別の期末残高及び主な種類別の内訳

(単位：百万円)

	２９年度			３０年度		
	信用リスクに関するエクスポージャーの残高			信用リスクに関するエクスポージャーの残高		
		うち貸出金等	うち債券		うち貸出金等	うち債券
国 内	426,314	196,216	12,439	445,487	198,040	11,968
国 外	-	-	-	-	-	-
合 計	426,314	196,216	12,439	445,487	198,040	11,968

注１：信用リスクに関するエクスポージャーの残高には、資産（自己資本控除となるもの、リスク・ウェイトのみなし計算が適用されるエクスポージャーに該当するもの、証券化エクスポージャーに該当するものを除く）及びオフ・バランス取引の与信相当額を含みます。

◇信用リスクに関するエクスポージャーの業種別の期末残高及び主な種類別の内訳

(単位：百万円)

項 目		２９年度			３０年度		
		信用リスクに関するエクスポージャーの残高			信用リスクに関するエクスポージャーの残高		
			うち貸出金等	うち債券		うち貸出金等	うち債券
法 人	農業	21	21	-	53	53	-
	林業	-	-	-	-	-	-
	水産業	-	-	-	-	-	-
	製造業	1,003	0	1,002	1,002	0	1,002
	鉱業	-	-	-	-	-	-
	建設・不動産業	22,346	21,745	600	25,033	24,432	600
	電気・ガス・熱供給・水道業	802	-	802	901	-	901
	運輸・通信業	1,103	-	1,103	1,304	-	1,304
	金融・保険業	211,993	2,669	400	229,658	2,669	300
	卸売・小売・飲食・サービス業	2,107	1,707	400	2,230	2,030	200
	日本国政府・地方公共団体	8,028	-	8,028	7,558	-	7,558
	その他	2,560	1,547	100	3,022	1,678	100
	個 人	168,725	168,524	-	167,207	167,174	-
そ の 他		7,620	-	-	7,513	-	-
合 計		426,314	196,216	12,439	445,487	198,040	11,968

注１：信用リスクに関するエクスポージャーの残高には、資産（自己資本控除となるもの、リスク・ウェイトのみなし計算が適用されるエクスポージャーに該当するもの、証券化エクスポージャーに該当するものを除く）及びオフ・バランス取引の与信相当額を含みます。

注２：「その他」には、ファンドのうち個々の資産の把握が困難な資産や固定資産が該当します。

◇信用リスクに関するエクスポージャーの残存期間別の期末残高及び主な種類別の内訳 (単位：百万円)

	29年度			30年度		
	信用リスクに関するエクスポージャーの残高			信用リスクに関するエクスポージャーの残高		
		うち貸出金等	うち債券		うち貸出金等	うち債券
1年以下	207,026	2,936	961	222,155	2,750	697
1年超3年以下	3,164	1,692	1,472	3,859	1,820	2,038
3年超5年以下	6,460	3,562	2,897	8,984	6,020	2,964
5年超7年以下	8,970	6,709	2,261	6,155	4,321	1,834
7年超10年以下	10,423	9,319	1,104	9,029	8,526	502
10年超	176,194	170,449	3,742	180,617	173,178	3,931
期限の定めのないもの	14,073	1,547	-	14,685	1,421	-
合 計	426,314	196,216	12,439	445,487	198,040	11,968

注1：信用リスクに関するエクスポージャーの残高には、資産（自己資本控除となるもの、リスク・ウェイトのみなし計算が適用されるエクスポージャーに該当するもの、証券化エクスポージャーに該当するものを除く）及びオフ・バランス取引の与信相当額を含みます。

◇3月以上延滞エクスポージャーの期末残高の地域別の内訳 (単位：百万円)

	29年度	30年度
国 内	938	726
国 外	-	-
合 計	938	726

注1：「3月以上延滞エクスポージャー」には、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から3ヶ月以上延滞しているエクスポージャーのほか、外部格付・カンントリーリスク・スコアによってリスク・ウェイトが150%となったエクスポージャーを含めています。

◇3月以上延滞エクスポージャーの期末残高の業種別の内訳 (単位：百万円)

項 目		29年度	30年度
法 人	農業	-	-
	林業	-	-
	水産業	-	-
	製造業	-	-
	鉱業	-	-
	建設・不動産業	-	-
	電気・ガス・熱供給・水道業	-	-
	運輸・通信業	-	-
	金融・保険業	-	-
	卸売・小売・飲食・サービス業	0	-
	日本国政府・地方公共団体	-	-
	その他	-	-
	個 人	937	726
合 計		938	726

注1：「3月以上延滞エクスポージャー」には、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から3ヶ月以上延滞しているエクスポージャーのほか、外部格付・カンントリーリスク・スコアによってリスク・ウェイトが150%となったエクスポージャーを含めています。

◇貸倒引当金の期末残高及び期中の増減額 (単位：百万円)

区 分	29年度					30年度				
	期首残高	期中増加額	期中減少額		期末残高	期首残高	期中増加額	期中減少額		期末残高
			目的使用	その他				目的使用	その他	
一般貸倒引当金	651	641	-	651	641	641	8	-	641	7
個別貸倒引当金	238	176	0	238	176	176	147	0	176	147
国 内	238	176	0	238	176	176	147	0	176	147
国 外	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
法 人	農業	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	林業	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	水産業	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	製造業	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	鉱業	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	建設・不動産業	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	電気・ガス・熱供給・水道業	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	運輸・通信業	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	金融・保険業	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	卸売・小売・飲食・サービス業	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	日本国政府・地方公共団体	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	個 人	238	176	0	238	176	147	0	176	147

◇貸出金償却の額

(単位：百万円)

項 目		29年度	30年度
法人	農業	-	-
	林業	-	-
	水産業	-	-
	製造業	-	-
	鉱業	-	-
	建設・不動産業	-	-
	電気・ガス・熱供給・水道業	-	-
	運輸・通信業	-	-
	金融・保険業	-	-
	卸売・小売・飲食・サービス業	-	-
	日本国政府・地方公共団体	-	-
	その他	-	-
	個 人	0	0
合 計		0	0

◇信用リスク削減効果勘案後の残高及びリスクウェイト 1250%を適用する残高

(単位：百万円)

		29年度			30年度		
		格付あり	格付なし	計	格付あり	格付なし	計
信用リスク削減効果 勘案後残高	リスク・ウェイト 0%	314	14,394	14,709	107	14,238	14,346
	リスク・ウェイト 2%	-	-	-	-	-	-
	リスク・ウェイト 4%	-	-	-	-	-	-
	リスク・ウェイト 10%	-	3,864	3,864	-	3,977	3,977
	リスク・ウェイト 20%	1,259	204,949	206,209	1,562	225,041	226,603
	リスク・ウェイト 35%	-	45,819	45,819	-	44,178	44,178
	リスク・ウェイト 50%	2,807	46	2,853	2,726	74	2,801
	リスク・ウェイト 75%	-	31,017	30,017	-	29,199	29,199
	リスク・ウェイト 100%	601	124,125	124,727	701	128,026	128,727
	リスク・ウェイト 150%	-	406	406	-	220	220
	リスク・ウェイト 200%	-	3,678	3,678	-	-	-
	リスク・ウェイト 250%	-	501	501	-	4,179	4,179
	その他	-	-	-	-	-	-
リスク・ウェイト 1250%		-	-	-	-	-	-
計		4,983	427,803	432,786	5,097	449,137	454,234

注1：信用リスクに関するエクスポージャーの残高には、資産（自己資本控除となるもの、リスク・ウェイトのみなし計算が適用されるエクスポージャーに該当するもの、証券化エクスポージャーに該当するものを除く）並びにオフ・バランス取引及び派生商品取引の与信相当額を含みます。

注2：経過措置によってリスク・ウェイトを変更したエクスポージャーについては、経過措置適用後のリスク・ウェイトによって集計しています。また、経過措置によってリスク・アセットを算入したものについても集計の対象としています。

注3：1250%には、非同時決済取引に係るもの、信用リスク削減手法として用いる保証又はクレジット・デリバティブの免責額に係るもの、重要な出資に係るエクスポージャーなどリスク・ウェイト 1250%を適用したエクスポージャーがあります。

■信用リスク削減手法に関する事項

◇信用リスク削減手法に関するリスク管理の方針及び手続の概要

「信用リスク削減手法」とは、自己資本比率算出における信用リスク・アセット額の算出において、エクスポージャーに対して一定の要件を満たす担保や保証等が設定されている場合に、エクスポージャーのリスク・ウェイトに代えて、担保や保証人に対するリスク・ウェイトを適用するなど信用リスク・アセット額を軽減する方法です。

当JAでは、信用リスク削減手法を「自己資本比率算出要領」にて定めています。

信用リスク削減手法として、「適格金融資産担保」、「保証」、「貸出金と自組合貯金の相殺」を適用しています。

適格金融資産担保取引とは、エクスポージャーの信用リスクの全部または一部が、取引相手または取引相手のために第三者が提供する適格金融資産担保によって削減されている取引をいいます。当JAでは、適格金融資産担保取引について信用リスク削減手法の簡便手法を用いています。

保証については、被保証債権の債務者よりも低いリスク・ウェイトが適用される中央政府等、本邦地方公共団体、本邦政府関係機関、外国の中央政府以外の公共部門、国際開発銀行、及び金融機関または第一種金融商品取引業者、これら以外の主体で長期格付がA-またはA3以上の格付を付与しているものを適格保証人とし、エクスポージャーのうち適格保証人に保証された被保証部分について、被保証債権のリスク・ウェイトに代えて、保証人のリスク・ウェイトを適用しています。

貸出金と自組合貯金の相殺については、①取引相手の債務超過、破産手続開始の決定その他これらに類する事由にかかわらず、貸出金と自組合貯金の相殺が法的に有効であることを示す十分な根拠を有していること、②同一の取引相手との間で相殺契約下にある貸出金と自組合貯金をいずれの時点においても特定することができること、③自組合貯金が継続されないリスクが監視及び管理されていること、④貸出金と自組合貯金の相殺後の額が監視及び管理されていること、の条件をすべて満たす場合に、相殺契約下にある貸出金と自組合貯金の相殺後の額を信用リスク削減手法適用後のエクスポージャー額としています。

担保に関する評価及び管理方針は、一定のルールのもと定期的に担保確認及び評価の見直しを行っています。なお、主要な担保の種類は自組合貯金です。

◇信用リスク削減手法が適用されたエクスポージャーの額

(単位：百万円)

区 分	29年度		30年度	
	適格金融 資産担保	保 証	適格金融 資産担保	保 証
地方公共団体金融機関向け	-	99	-	-
我が国の政府関係機関向け	-	-	-	-
地方三公社向け	-	200	-	100
金融機関向け及び 第一種金融商品取引業者向け	-	-	-	-
法人等向け	46	100	75	-
中小企業等向け及び個人向け	905	957	957	1,069
抵当権住宅ローン	-	-	-	-
不動産取得等事業向け	-	-	-	-
3月以上延滞等	42	0	13	1
証券化	-	-	-	-
中央清算機関	-	-	-	-
その他	257	16	230	17
合 計	1,252	1,273	1,276	1,188

注1：「3月以上延滞等」とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から3ヶ月以上延滞している債務者に係るエクスポージャー及び「金融機関向け及び第一種金融商品取引業者向け」、「法人等向け」等においてリスク・ウエイトが150%になったエクスポージャーのことです。

注2：「上記以外」には、現金・外国の中央政府及び中央銀行向け・国際決済銀行等向け・外国の中央政府等以外の公共部門向け・国際開発銀行向け・取立未済手形・未決済取引・その他の資産（固定資産等）が含まれます。

■派生商品取引及び長期決済期間取引の取引相手のリスクに関する事項

該当する取引はありません

■証券化エクスポージャーに関する事項

該当する取引はありません

■出資その他これに類するエクスポージャーに関する事項

◇出資その他これに類するエクスポージャーに関するリスク管理の方針及び手続の概要

「出資その他これに類するエクスポージャー」とは貸借対照表上の有価証券勘定及び外部出資勘定の株式又は出資として計上されているものであり、当J Aにおいては、これらを①子会社及び関連会社株式、②その他の有価証券、③系統及び系統外出資に区分して管理しています。

①子会社及び関連会社については、経営上も密接な連携を図ることにより、当J Aの事業のより効率的運営を目的として、株式を保有しています。これらの会社の経営については毎期の決算書類の分析の他、毎月定期的な連絡会議を行う等適切な業況把握に努めています。

②その他の有価証券については中長期的な運用目的で保有するものであり、適切な市場リスクの把握及びコントロールに努めています。具体的には、市場動向や経済見通しなどの投資環境分析及びポートフォリオの状況やALMなどを考慮し、理事会で運用方針を定めるとともに経営層で構成する余裕金運用会議を定期的に開催して、日常的な情報交換及び意思決定を行っています。運用部門は理事会で決定した運用方針及び余裕金運用会議で決定された取引方針などにに基づき、有価証券の売買やリスクヘッジを行っています。運用部門が行った取引についてはリスク管理部門が適切な執行を行っているかどうかチェックし定期的にリスク量の測定を行い経営層に報告しています。

③系統出資については、会員としての総会等への参画を通じた経営概況の監督に加え、日常的な協議を通じた連合会等の財務健全化を求めており、系統外出資についても同様の対応を行っています。

なお、これらの出資その他これに類するエクスポージャーの評価等については、①子会社及び関連会社については、取得原価を記載し、②その他有価証券については時価評価を行った上で、取得原価との評価差額については、「その他有価証券等評価差額金」として純資産の部に計上しています。③系統及び系統外出資については、取得原価を記載し、毀損の状況に応じて外部出資等損失引当金を設定しています。また、評価等重要な会計方針の変更等があれば、注記表にその旨記載することとしています。

◇出資その他これに類するエクスポージャーの貸借対照表計上額及び時価 (単位：百万円)

	29年度		30年度	
	貸借対照表計上額	時価評価額	貸借対照表計上額	時価評価額
上場	-	-	-	-
非上場	4,546	4,546	4,546	4,546
合計	4,546	4,546	4,546	4,546

注：「時価評価額」は、時価のあるものは時価、時価のないものは貸借対照表計上額の合計額です。

◇出資その他これに類するエクスポージャーの売却及び償却に伴う損益 (単位：百万円)

	29年度			30年度		
	売却益	売却損	償却額	売却益	売却損	償却額
上場	-	-	-	-	-	-
非上場	-	-	-	-	-	-
合計	-	-	-	-	-	-

◇貸借対照表で認識され損益計算書で認識されない評価損益の額
(その他有価証券の評価損益等)

(単位：百万円)

	29年度		30年度	
	評価益	評価損	評価益	評価損
上場	-	-	-	-
非上場	-	-	-	-
合計	-	-	-	-

◇貸借対照表及び損益計算書で認識されない評価損益の額
(子会社・関係会社株式の評価損益等)

(単位：百万円)

	29年度		30年度	
	評価益	評価損	評価益	評価損
上場	-	-	-	-
非上場	-	-	-	-
合計	-	-	-	-

■リスク・ウェイトのみなし計算が適用されるエクスポージャーに関する事項

(単位：百万円)

	29年度	30年度
ルックスルー方式を適用するエクスポージャー	-	-
マンドート方式を適用するエクスポージャー	-	-
蓋然性方式（250％）を適用するエクスポージャー	-	-
蓋然性方式（400％）を適用するエクスポージャー	-	-
フォールバック方式（1,250％）を適用するエクスポージャー	-	-

■金利リスクに関する事項

◇金利リスクの算定方法の概要

金利リスクは、金融機関の保有する資産・負債のうち、市場金利に影響を受けるもの（例えば、貸出金、有価証券、貯金等）が、金利の変動により発生するリスク量を見るものです。当ＪＡでは、市場金利が上下に2%変動したときに受ける金利リスク量を算出することとしています。

要求払貯金の金利リスク量は、明確な金利改定間隔がなく、貯金者の要求によって随時払い出される要求払貯金のうち、引き出されることなく長期間金融機関に滞留する貯金をコア貯金と定義し、当ＪＡでは、普通貯金等の額の50%相当額を0～5年の期間に均等に振り分けて（平均残存2.5年）リスク量を算定しています。

金利リスクは、運用勘定の金利リスク量と調達勘定の金利リスク量を相殺して算定します。

$$\text{金利リスク} = \text{運用勘定の金利リスク量} + \text{調達勘定の金利リスク量} \text{ (▲)}$$

◇金利リスクに関する事項

(単位：百万円)

IRRBB 1：金利リスク					
項番		イ	ロ	ハ	ニ
		△EVE		△NII	
		当期末	前期末	当期末	前期末
1	上方平行シフト	3,863			
2	下方平行シフト	0			
3	スティーブ化	2,967			
4	フラット化	0			
5	短期金利上昇	386			
6	短期金利低下	0			
7	最大値	3,863			
		ホ		ヘ	
		当期末		前期末	
8	自己資本の額	24,735			

8. 財務諸表の正確性等にかかる確認

私は、平成30年4月1日から平成31年3月31日までの事業年度にかかるディスクロージャー誌に記載した内容のうち、財務諸表作成に関するすべての重要な点において適正に表示されていることを確認いたしました。

当該確認を行うにあたり、財務諸表が適正に作成される以下の体制が整備され、有効に機能していることを確認しました。

- ・業務分掌と所管部署が明確化され、各部署が適切に業務を遂行する体制が整備されております。
- ・業務の実施部署から独立した内部監査部門が内部管理態勢の適切性・有効性を検証しており、重要な事項については理事会等に適切に報告されております。
- ・重要な経営情報については、理事会等へ適切に付議・報告されております。

令和元年7月8日

J A福岡市 代表理事組合長

鬼木 晴人 